

酒々井町

郷土研究会会報

第137号

平成22年7月1日
酒々井町郷土研究会
広報部

馬橋の獅子舞

小出 一也

毎年七月第三土曜日の夕刻、馬橋区の香取神社では年に一度の祭禮が行われ、馬橋獅子舞保存会による「馬橋の獅子舞」が奉納されています。

昭和五十二年町指定無形文化財となったこの獅子舞は、古くは江戸時代中期、約三〇〇年前から伝承されているといわれ、区内安全・五穀豊穰・悪疫退散等を祈願し演舞されています。残念ながら、現在では正確な由緒由来はわかりません。大戦の影響で一時中断を余儀なくされた時もあったそうですが、昭和四十三年見事に復活を遂げ、以来脈々と、親子から子、子から孫へと伝え続けられています。

舞は、大きく分けて、芝獅子、へ

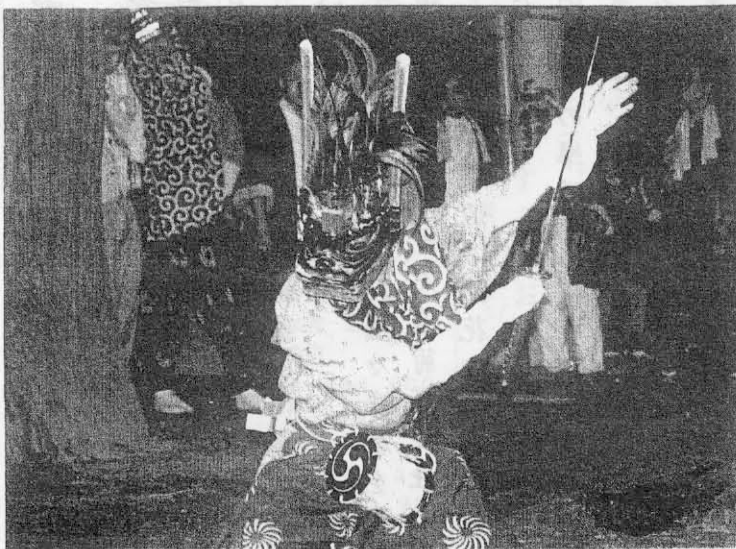
今年の郷土史講座

「千葉市の戦国時代城館跡」は八月二十九日(日)です

いそく獅子、猿獅子、剣の舞の四芝居から成り、各芝居ごとに一〇前後の演目があります。四芝居を通じて大獅子、中獅子、雌獅子の三匹獅子、猿獅子では赤猿、白猿の二匹の猿がこれに加わり、笛、太鼓の音色に合わせて舞い踊ります。各獅子、猿ごとに単独で演舞する演目もあり、その舞からは、それぞれの獅子の個性や、踊り手ごとの個性が表れてきます。踊り手や奏者にとっては緊張の一瞬。しかし、見せ場でもあります。演者たちは当然のことながら、指導してきた方々、区長さん、皆、本当に真剣です。一時は過疎・高齢化のため後継者不足が問題になった時もあったようですが、最近では、中学生ころから祭禮へ参加する子も現れ、また指導

や練習も時勢にあったやり方になるなど、馬橋区全体で「おまつりを残そう、盛り上げよう」と努力しているところですが、こうした一つ一つの取り組みが、参加する者だけでなく、観に来てくださる方々や、次世代の演者たちの心に少しでも伝わり、地域が活性化していくことで、「馬橋の獅子舞」がずっと続いていけばと願っています。

今年の開催は、七月十七日です。馬橋区香取神社境内にて多くの方々のご来場をお待ちしております。



大宮方面の探訪

進藤 浩一

三月九日(火)朝、京成酒々井駅から二十七名が集合して出発。大宮駅から十分位で大宮氷川神社の二の鳥居に着き、ここから参道を歩く。

ちようどこの頃から雨が降り始めた。一の鳥居から三の鳥居までは約二キロメートルのケヤキ並木が続いている。神橋を渡ると鮮やかな朱色の楼門があり、中に入ると舞殿、拜殿とその奥に本殿があった。高木副会長から、かつては「武蔵国一の宮」として武蔵の国でトップの位置を占めた神社で、須佐之男命と稲田姫命、大己貴命の三柱の祭神が祀られていて、出雲大社ともつながりがあるので、出雲大社にお参りしたのと同じことになるとの説明があり、みんなお賽銭をあげてお願いをしていた。

この後、雨が降り続くことが予想されたので、境内で岡田会長の自由解散の挨拶がされ、予定通り次の目的地に向かう人と、大宮駅から帰途に着く人に分かれた。

神社の隣にある大宮公園は桜の名所で、満開の時は見事だろうと想像できるが、まだつぼみでしかも雨が

降っていたので閑散としていた。

盆栽村では六軒の内の一軒を見学。立派に育てられた盆栽が並んでいた。漫画会館は、さいたま市ゆかりの近代漫画の先駆者「北沢楽天」の晩年の住居跡に建てられた日本初の漫画に関する美術館。特に時事漫画は、明治から昭和にかけての政治やサラリーマンの風刺画など現代と変わらぬ世相が描かれており興味深かった。神社、公園、盆栽、美術館と見所が多かったが、昼前から雨になりちよつと残念な名勝探訪であった。

野草観察会に参加して

中山 暉

今年は四月も寒波が襲い、連日冷たい雨の日が続いていました。観察会の四月二十七日も雨予報で心配されましたが、天が味方し観察中は降られず幸いでした。

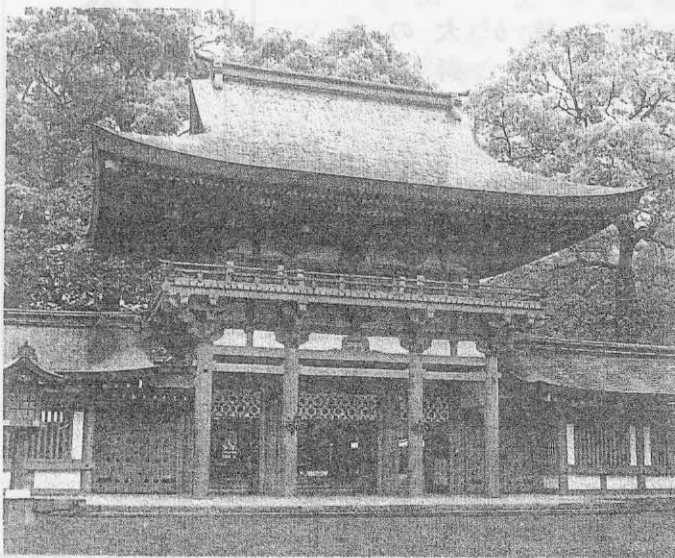
十五名の参加、JR酒々井駅を出発し中川の源流に当たる菊賀神社の下と、中山谷津周辺の草花の観察をしました。

田植えの準備作業中、のどかな田園風景の中、最初の花は、あぜ道のポピームみたいなナガミヒナケシから始まりました。踊り子の衣装に似たヒメオドリコソウ、名に似つかない小さな花のオオイヌノフグリ・・・。

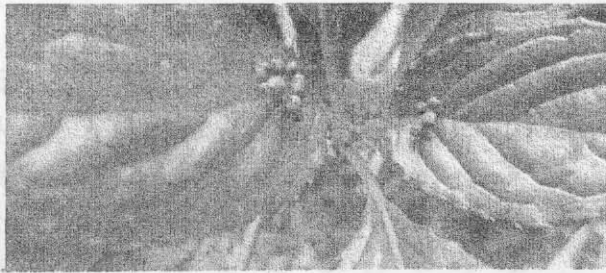
山裾の木立の下では、花が筏に乗っている様に見えるハナイカダ、螢の光に例えられたホタルカズラなども見つけることができました。

湧水保存会の方々が整備された中山谷津に入ると、淋しく可憐に咲くヒトリシズカと今は花が咲いていないフタリシズカなどもありました。

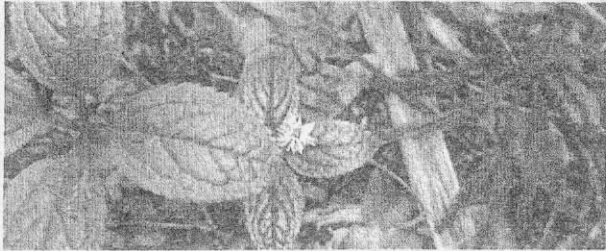
湧水の溜まり場で目を閉じると水の音と、ウグイス、蛙の鳴声を耳にすることができ自然を肌を感じることに



氷川神社 楼門



ハナイカダ



ヒトリシズカ

もできました。
 小生は、二度目の参加です。手づくりの参考書を頂き、一つ一つの花を丁寧に説明していただきまして、ありがとうございます。
 少しでも多くの草花の名前を憶えたくて百枚ほど写真を撮りましたがメモした花の名前の数が足りなくて正確に記録できませんでしたので次の課題です。皆さんはどのようなして憶えられたのですか。
 今回の観察で草花への関心が高まり、これからのウォーキングに楽しみが増えました。

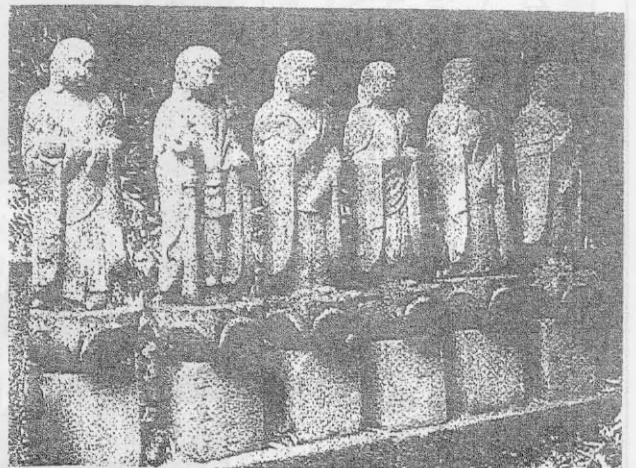
町内史跡めぐりに参加して

石黒 征雄

当日は、生憎の雨模様であったが、開催するとのことと、三人の仲間にも連絡し参加した。

下岩橋く中川方面の史跡めぐりは、初体験でした。私自身は、酒々井町タウンカレッジの八期生として昨年より町の勉強をさせて頂いていることもあり、また今後「町おこし」をテーマに取り組んでいきたいと考えておりましたので、歴史ある酒々井の史跡を知りたい機会となりました。

既に「本佐倉城跡」、「浄泉寺」、「吉祥寺」等をカレッジ仲間と巡り始めたばかりでした。
 主催者の「酒々井町郷土研究会」との出会いは、「タウンカレッジ」の授業で同会の副会長である高木正浩さんの講義を受講したことからです。
 また、他のメンバーの中に「酒々井ふるさとガイドの会」でガイドして頂いた方もおられ、スムーズに入り込むことができました。
 本日は、少人数のグループに小分けして、対面での説明をして頂き、いい勉強になりました。



新光寺の六地藏

今回は、「町内史跡めぐり」のテーマばかりが目には焼き付いていて、表題の「文化と自然を学ぶ」を見落とししておりましたが、酒々井の自然界に生息する草花の実態・種類・開花時期・密生地・限られた繁殖地等、微に入り細に入り説明頂き感謝いたします。
 史跡巡りにについても、全く初めてのコースでありましたが、こんな身近な場所に史跡等が存在していたのかと驚いています。ルートマップがあればよかったです。ルートをマップがともあれ、町の歴史を知る貴重な体験でした。有難うございました。

南房総の旅

竹下 康子

五月十一日から一泊二日の南房総の旅に参加した。中央公民館広場に集まった私たちは、用意されたバスに乗って佐倉インターから高速道路で一路南房総へと向かった。富津金谷で高速を降りた私たちが最初に訪ねたのは鋸山であった。その後日本寺、那古寺を参拝し、その夜は白浜温泉に宿泊、翌日安房神社、満徳寺に詣で東京ドイツ村に寄り、帰ると一つ一つについて詳しく触れてゆくことは難しいので、ここでは私が感動したいくつかの場面のみ書いてみることにする。

まず私が最初に感動したのは鋸山の「百尺観音像」であった。鋸山の頂上の岸壁に刻まれたこの像は高さ三十三メートルに及ぶ大きなもので見る者の心を圧倒した。戦争で戦病死した人たちの冥福と東京湾周辺の交通の安全を願って昭和四十一年五月から六年の歳月を費やして作られたとのことである。

「地獄のぞき」での恐怖?を経験したのち、次に私を感動させたのは「千

五百羅漢道」であった。安永八年（一七七九）、高雅愚仏禅師の発願で、当時上総桜井の名工であった大野甚五郎とその門弟二十七名によつて二十一年かけて創られたという「羅漢」は正式には「阿羅漢」と言い、一切の煩惱を滅して自力で悟りを開いた小乗仏教修行者を呼ぶようだが、像の中には笑うものあり語るものもあつて温かい人間愛といったようなものが漂っているように感じた。

日本寺の九丈二尺の大仏（薬師瑠璃光如来像）、那古寺の観音堂（銅造千手観音立像）と多宝塔が有名、常楽山満徳寺（青銅製の涅槃仏は世界一）等についても触れてみたいがここはこれまで。

石段と格闘しながら登った雨の鋸山、あふれんばかりの新緑、忘れられない旅になりそうです。

一泊見学会にて詠む

丸山 緑 醉

- ・新緑に染まる百尺磨崖仏
- ・天と水境に霞む島の影
- ・袋からのぞく小振りな枇杷愛し



訃報

運営委員の近田トメ子氏には六月十七日（享年七十七歳）ご逝去されました。長らく郷土研究会の運営にご尽力いただきました。

謹んでご冥福をお祈りいたします

見学

案内

秋の野草観察会

菊賀神社周辺

九月九日(木) 雨天決行



春の観察会と同じ菊賀神社近くの中山谷津、山之田谷津周辺に行きます。季節の変化による草花の違いを観たいと思います。観察後、交流サロン「井戸端」にて勉強会と昼食をとりま

名勝探訪

品川宿と羽田空港方面

九月十七日(金)

雨天代替日 九月二十七日(月) 品川宿は東海道五十三次の第一宿で、江戸四宿と呼ばれ栄えていた所です。

新馬場駅で降り、今は商店街となっていますが旧東海道を青物横丁駅まで歩き、昔の面影が残されている神社史跡を探索します。

羽田空港は、自由散策で展望デッキからの見学、昼食などを楽しんできたいと思います。

《観察メモ》

カラスピシヤク(サトイモ科)



長さ5〜7センチの仏炎苞を柄杓に見立ててこの名がつけました。

五月頃から夏にかけて、酒々井のあちこちで見かけるかわいらしい植物です。春に見られる「ウラシマソウ」「マムシグサ」と同じサトイモ科で、葉柄の真ん中あたりと小葉のつけ根に珠芽ができます。これを乾燥

させたものを「半夏」と呼び、漢方で薬用とします。若い個体の葉はハート型で花は咲かない。やがて絵のような三出複葉になり花を咲かせます。

あとがき

今年は一泊見学会は鋸山で、町内史跡めぐりも下岩橋から雨に降られて困りました。行事は天気が半分、元気が半分といわれますが、いくらか元気があっても五〇%ですものね。政府の人氣も一段と雨が強くなっておりますが、ここにきて一気に晴れるかどうか。会報編集班もスタッフが充実してまいりました。

会員の皆様も気分を爽快に保つよう頑張つて、真夏を健康で無事に乗り切られますようお祈り致します。

<郷土研日誌>

Table with columns: 月日, 活動内容, 参加者. Lists various activities and participant counts from March to June.

会計報告

《一泊見学会・南房総方面》(5.11~12)

参加者 22名

Financial summary table showing income (494,000円) and expenses (485,903円) for the field trip.

郷土史講座

「千葉市の戦国時代城館跡」



土気城跡概念図

室町時代の終わり頃、酒々井の地に本佐倉城が築城されて政治的機能が移されるまで、千葉市は長きにわたり当時の下総国を治めていた千葉氏の本拠地でした。

その後を迎える千葉の戦国時代はこの地の支配者千葉氏を中心として上総の武田氏や安房の里見氏、小弓公方となった足利義明、そして小田原の後北条氏などが入り乱れて抗争を繰返した時代であり、その舞台として大小様々な城館跡が築かれました。

今回の郷土史講座では、千葉市郷土博物館において「千葉市の戦国時代城館跡」と題して企画展示を担当した同館の築瀬裕一氏に、戦国時代・千葉の最前線にあった千葉市域の城館跡の様相から探る当時の状況や酒々井の地に移った千葉氏や本佐倉城との関係などについて講演いただきます。

郷土研行事案内

平成22年7月～9月

史談会	7月 3日(土) 13:30 中央公民館会議室 「成田参詣記」⑧ 講師：高橋健一先生	8月 休 講	9月 4日(土) 13:30 中央公民館会議室 「成田参詣記」⑨ 講師：高橋健一先生
郷土史講座	<p>「千葉市の戦国時代城館跡」</p> <p>日時 8月29日(日) 開演 13:30 (開場 13:00)</p> <p>講師 築瀬裕一氏 (千葉市立郷土博物館)</p> <p>会場 中央公民館 研修室(2階)</p> <p>後援 酒々井町教育委員会 酒々井町文化協会</p>		
野草観察会	<p>9月9日(木) 雨天決行(当日の問合せ 8:20~8:50 犬島まで)</p> <p>*雨天の場合、交流サロン(井戸端)で資料による勉強会を行います。</p> <p>観察場所 菊賀神社周辺(春の観察会と同じ場所にしてみました。)</p> <p>観察後、交流サロンにて昼食、勉強会。</p> <p>参加費 200円 弁当、飲み物等各自持参</p> <p>集合時刻・場所 9:25 JR酒々井駅東口(東酒々井側)</p> <p>14:00頃 解散予定</p>		
名勝探訪	<p>「品川宿と羽田空港方面」</p> <p>9月17日(金) 雨天代替日 9月27日(月)</p> <p>(当日の問合せ 7:00~7:30 寺本まで)</p> <p>参加費 100円</p> <p>その他 昼食は、羽田空港内で自由昼食とします</p> <p>集合時刻・場所 8:10 京成酒々井駅・構内改札口前(階上)</p> <p>コース 京成酒々井駅—青砥—品川(京浜急行乗換)—新馬場駅…品川神社…品川寺(ほんせんじ)…青物横丁駅—羽田空港<昼食後、自由解散>—京成酒々井駅</p> <p>15:00頃 帰着予定 (コースに一部変更の場合あり)</p>		